

OCHADAI GAZETTE

お茶の水女子大学学报 第214号 2007年7月15日

OCHADAI GAZETTE Summer, 2007



日々、躍進する お茶の水女子大学

挑戦と充実 ー教育・研究・事務組織の改革ー

CONTENTS

TOPICS

教育環境の充実.....1	
大学論・情報教育・リベラルアーツ	
国際化の推進.....3	
リベラルアーツ教育のヴァッサー大学夏期研修	
世界最高水準の教育研究拠点形成.....5	
グローバルCOEに採択！	
研究者育成事業.....7	
科学技術振興調整費に採択！	
教員紹介.....9	
番雅司先生（大学院人間文化創成科学研究科）	
大学改革としての事務改革.....11	

平成19年度入学式学長告辞.....13	
奨学金受賞者決定.....17	
ホームカミングデイグラフレポート.....19	
キャンパス点描.....21	
歴史資料館企画展「女高師と皇室展」	
大学院オープンキャンパス.....22	
イベントインフォメーション	



お茶の水女子大学
Ochanomizu University

教育環境の充実

大学論・情報教育・リベラルアーツ

お茶の水女子大学論開講

「お茶の水女子大学論」とは主に1年生を対象として、「大学で何を学ぶべきか」を、将来のキャリアデザインを踏まえて学生自身が考えるための科目です。お茶の水女子大学の歴史と現代社会における位置づけを理解し、各界で活躍する卒業生の職業経験に関する講義を聴き、ディスカッションすることで、学生が自己発見と将来像を形成していくための基礎的要素を身につけます。

各界で活躍している卒業生による講演

(株) パーソナルデザイン代表取締役 唐澤理恵さん (S60家政・被服卒) 「ベンチャー企業への就職から、ベンチャー起業家へ」
(株) 資生堂リサーチセンター 岩城はるひさん (H1理・化学卒、H3修士H11博士) 「化粧品の化学……ヒトを彩るサイエンス」
麻布高校 磯部ひろみさん (H12文教育・比歴卒、H14修士) 「教職課程の授業を受けていたころには予想もしなかったこと」
『日経EW』編集長 野村浩子さん (S59文教育・国文卒) 「ハッピーキャリアの法則～私らしく、ハッピーに働くために」
東京ガス(株) 人事部 山田敦子さん (S61家政・家庭経営卒) 「組織の中で輝く人材」
松下電器産業(株) 簀ゆき子さん (S56家政・被服卒) 「くらし研究からの新たな価値創造～家電商品開発の現場から～」
特許庁 特許審査第三部 深草亜子さん (H5理・化学卒) 「特許審査にたずさわって感じてもらうこと」

学部1年生にノートパソコンを貸与

お茶の水女子大学では、平成20年度から「21世紀型文理融合リベラルアーツ教育」プログラムを本格的にスタートするに備え、平成19年4月の学部入学生全員にノートパソコンを無料で貸与することになりました。

同プログラムの狙いは、知識や技術の専門化・多様化と社会のグローバル化が並行して進んでいる現代社会において、高度な教養に加え、発信し交渉する能力、領域横断的な視野、変化に対応する判断力をもった学生を育成することにあります。文系・理系にまたがるテーマにそって、講義・討論・発表・実験実習・演習を組み合わせた科目群をつくり、多面的な学習を通じて、読み・聞き・書き・語り・作るという5つの能力を養成していくことが基本を成しています。その際不可欠なのがパソコンの活用であり、情報教育です。それは、パソコンを自在に使いこなす手法を習得することによって、新たな情報化社会を切り拓く能力を学生が身につけることを意図しています。

貸与されたパソコンは学生自らがセットアップやアプリケーションのインストールを行い、「自分仕様」のパソコンを作っていくことになっています。この諸作業も、教育の一環として考えており、20年度入学者にも同様に貸与する予定です。



貸与されたパソコンをセットアップする学生

附属図書館にラーニング・コモンズが誕生

本年4月、附属図書館1階に新しく「ラーニング・コモンズ」が誕生しました。ラーニング・コモンズは、単なるパソコンの利用スペースではなく、「21世紀型文理融合リベラルアーツ」を支える学生のための共同コミュニケーションスペースです。

ラーニング・コモンズでは、採光を配慮した開放的で明るいスペースに、学生用パソコン約50台を配置しています。全てのパソコンは、全学統一認証システムで管理され、セキュリティ面でも安心して利用できる環境です。無線LANの利用も可能で、本年度から学部新入生全員へ貸与しているノートパソコンを自由に利用できる場としても学生の人気スポットになりました。

サポート面では、ラーニング・アドバイザーとして大学院生が常駐し、パソコンの使い方をはじめ様々な質問に対応しています。



ラーニング・コモンズで



リベラル・アーツ図書コーナー

ラーニング・コモンズの新設に併せて、図書館2階には、リベラルアーツ図書コーナーを新設しました。

平成20年度からの「お茶大型リベラルアーツ」教育の本格開始に向けて、さらに学生用図書を充実していく予定です。

教育環境の充実

大学論・情報教育・リベラルアーツ

国際化の推進

リベラルアーツ教育のヴァッサー大学夏期研修



学内を見学する研修生たち

本学の協定校であるヴァッサー大学からの研修生が6月4日から7月28日まで8週間の日程で来日中です。研修生は女子5名、男子8名の総勢13名で、うち9名は本学の寮に滞在しています。期間中はお茶の水女子大学の正規授業に参加し、英会話演習や異・多文化交流演習でお茶大生とグループをつくって調査やプレゼンテーションを行うほか、茶道、空手、合気道、百人一首などの課外活動を体験したり、国際教育センタが主催する文化教室では華道や書道にも挑戦します。



歓迎会や課外活動でのお茶大生との交流



研修スケジュール（前半）

	9:30 - 12:30	1:30 - 5:00
6/2 Sat 6/3 Sun		—ヴァッサー大学学生、日本に到着 —お茶の水大学寮及び宿舎に滞在
6/4 Mon	オリエンテーション	—オリエンテーション
6/5 Tue	日本語クラス L15	—日本語会話
6/6 Wed	日本語クラス L15	—文化教室『華道教室』 —授業名：『グロ文(交流実習授業)』 教員名：小柳志津先生
6/7 Thur	日本語クラス L15	—日本語会話
6/8 Fri	日本語クラス L16	—L15 課テスト —フィールドトリップ説明
6/9 Sat	フィールドトリップ1（六本木ヒルズ）	
6/10 Sun	オアゾ丸善（オプション）	

	9:30 - 12:30	1:30 - 5:00
6/11 Mon	日本語クラス L16	—授業名：『英会話演習(初級)』 教員名：エドワード・シェイ ファー先生 —部活動訪問：『百人一首』
6/12 Tue	日本語クラス L16	—日本語会話
6/13 Wed	日本語クラス L17	—L16 課テスト
6/14 Thur	日本語クラス L17	—日本語会話
6/15 Fri	日本語クラス L17	—フィールドトリップ説明
6/16 Sat	フィールドトリップ2（隅田川下り：浜離宮—浅草）	
6/17 Sun	原宿（オプション）	



文化教室では華道や書道も体験



国際化の推進

リベラルアーツ教育のヴァッサー大学夏期研修

世界最高水準の教育研究拠点形成 グローバルCOEに採択！

格差センシティブな 人間発達科学の創成

大学院人間発達科学専攻から申請していたグローバルCOEプログラム「格差センシティブな人間発達科学の創成」がこのほど採択されました。

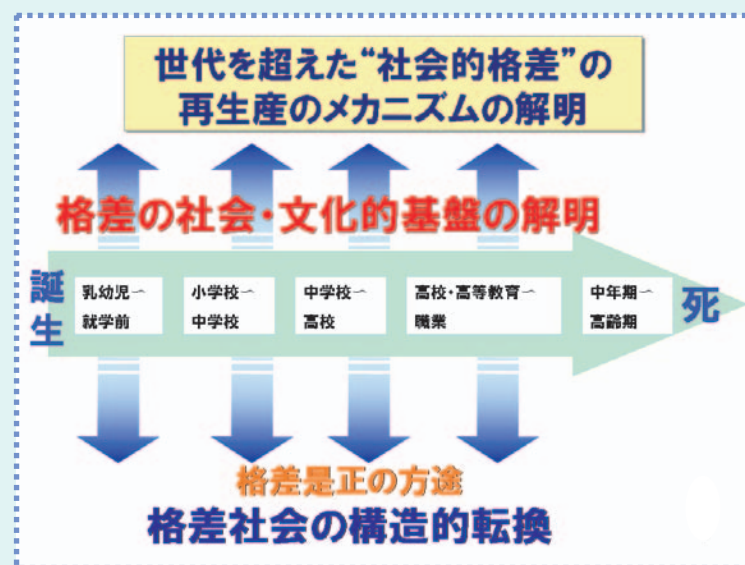
グローバルCOEプログラム

大学院の教育研究機能を一層充実・強化し、世界最高水準の研究基盤の下で世界をリードする創造的な人材育成を図るため、国際的に卓越した教育研究拠点の形成を重点的に支援し、もって、国際競争力のある大学づくりを推進することを目的としています。

平成19年度は、「生命科学」、「化学、材料科学」、「情報、電気、電子」、「人文科学」、「学際、複合、新領域」の5分野について合計281件の申請の中から、審査を経て63件が採択されました。「格差センシティブな人間発達科学の創成」は、人文科学分野で採択されたものです。

人間発達科学専攻は、21世紀COEプログラムに引き続き、今後5年間、「社会的公正に敏感な」女性研究者を育成し、国際的にも通用する教育研究拠点を構築するために、さまざまな教育プログラムや研究プロジェクトを遂行していきます。

教育プログラムとしては、リサーチ・アシスタントの雇用、院生・若手研究者を対象とした研究プログラムの公募、海外学会や調査への派遣、英語論文作成・発表支援、各種セミナー・シンポジウムの開催、実践現場との協働研究プログラムなどを計画しています。



世界最高水準の教育研究拠点形成
グローバルCOEに採択！

研究者育成事業

科学技術振興調整費に採択！

自立的若手研究者育成

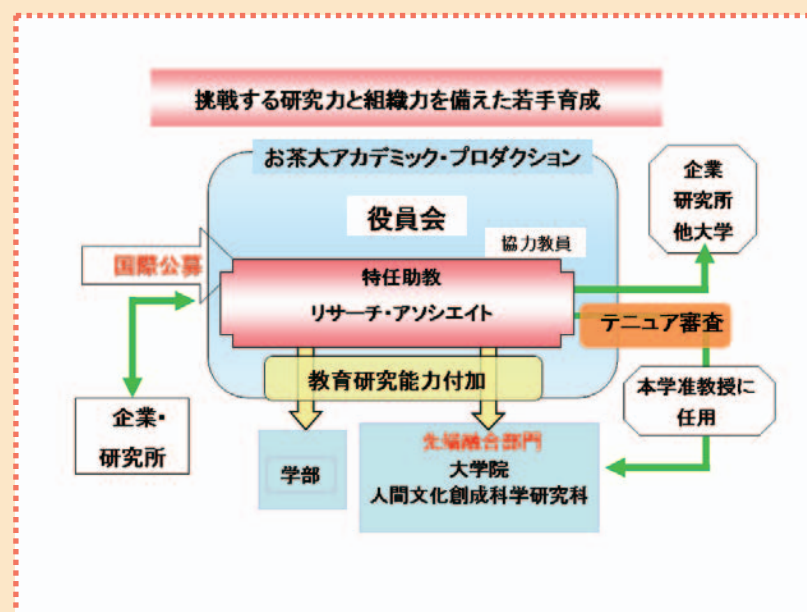
お茶大アカデミック・プロダクション

お茶の水女子大学では、先端的研究に挑戦する若手研究者の自立を促す新たな取り組みを開始します。

平成19年度科学技術振興調整費＜若手研究者自立的な研究環境整備促進＞事業に、お茶の水女子大学が提案したプログラム「挑戦する研究力と組織力を備えた若手育成」が採択されました。

このプログラムでは、「お茶大アカデミック・プロダクション」を新たに組織することによって、お茶の水女子大学が重点化する新たな分野に挑戦する若手研究者を、テニユア・トラックに適するように育成することを目的としています。

高度な研究力、実践的な教育力、実質的なマネジメント力を備えた自立的人材を育成し、世界的研究拠点の形成をめざします。

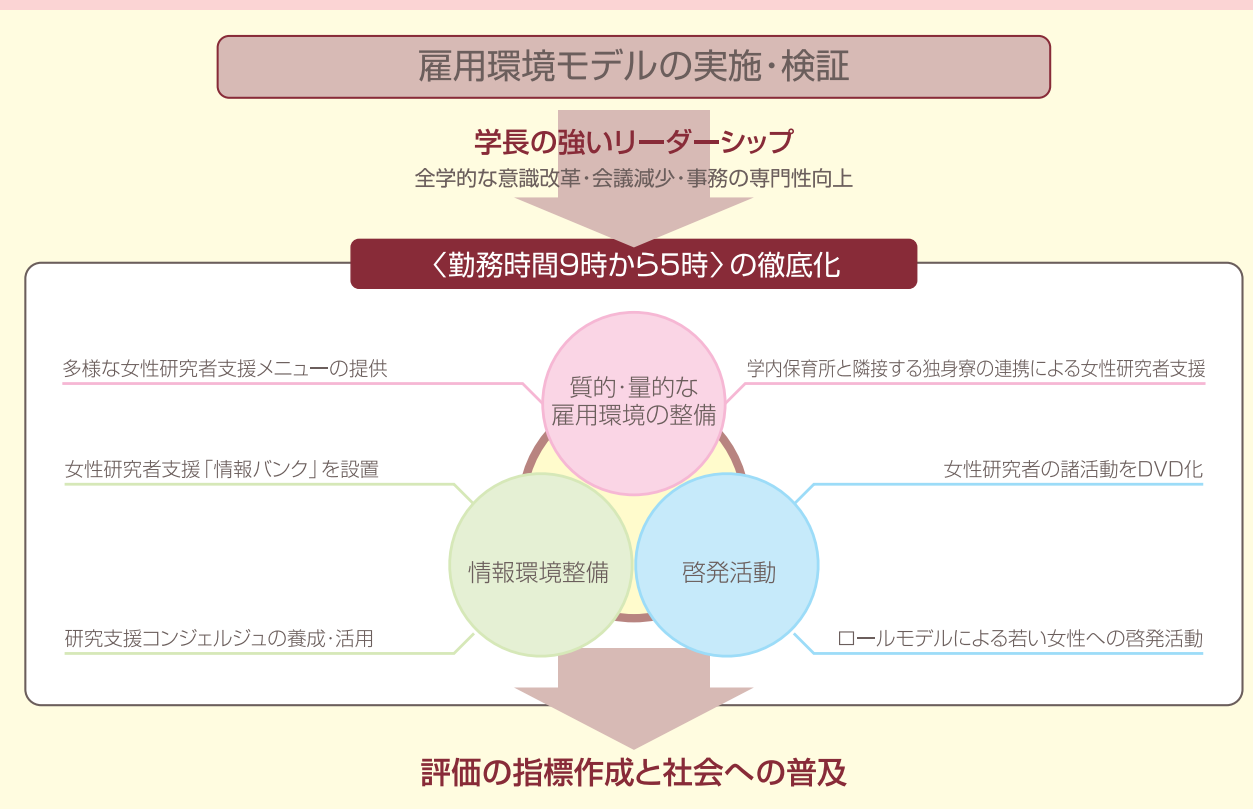


女性研究者育成

女性研究者に適合した雇用環境モデル

昨年に引き続いて、科学技術振興調整費「女性研究者に適合した雇用環境モデル育成」事業を実施しています。

その主な要素は、子育て中の女性研究者（5名）をモデルとして支援メニューを検討・検証すること、女性が研究を継続するために必要な情報を蓄積し提供すること、ロールモデルのDVDを作成して啓発活動を行うことです。計画の中にある＜勤務時間「9時～5時」の徹底＞が注目されています。



この事業の一環として、6月20日（水）には、郷学長も出席し、パネルディスカッション「女性が仕事を続けるには？」が行われました。

本学出身の卒業生5名をパネリストとして招き、学生に身近なロールモデルの実体験を聞く貴重な機会となりました。



質問に答える卒業生パネリスト

研究者育成事業

科学技術振興調整費に採択！

教員紹介

先端的研究の推進

本誌では、今号より、「教員紹介」と題してご自身の研究や教育観などを語っていただくページを設けました。

第1回は、大学院人間文化創成科学研究科先端融合部門先端融合系の番雅司教授に、お話を伺います。

番先生は20年間の日立製作所基礎研究所勤務（主任研究員）を経て今春本学に着任されましたが、研究所時代より玉川大学学術研究所特別研究員、東京電機大学客員教授、独立行政法人情報通信研究機構特別研究員なども歴任されています。主要な研究分野は、量子情報理論、量子光学、非平衡量子統計力学です。

Q ご専門分野について、実用化された段階で我々の生活にどうかかわって来るのか、教えて下さい。

A 今のITというのは古典物理学、古典情報理論に基づいているわけですが、量子力学に基礎を置く情報理論に基づいた新しいITが構築されると、強固なセキュリティ技術や高度な情報処理技術が可能になると期待されています。量子暗号や量子コンピュータと呼ばれています。まだまだ先のことですが。ただ、私の興味はそういったITではなく、あくまでも基礎物理学としての量子情報です。

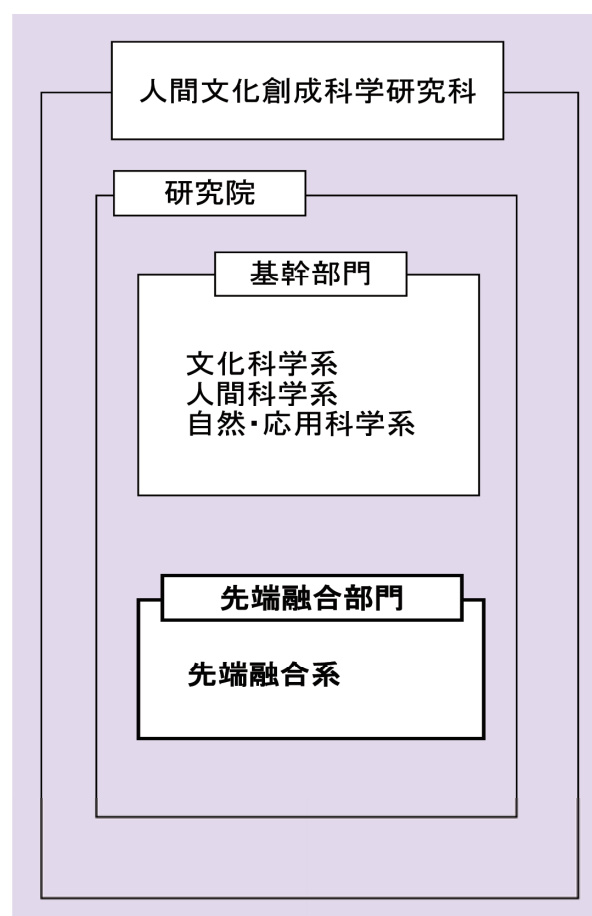
Q 小さい時からこの道に、とお考えでしたか？

A いえ、理数系は好きでしたが、研究者になりたいと考えるようになったのは大学時代からです。それと、国語など文系の教科が嫌いだったので消去法で理系にというのもあった気はしますが。

番先生が所属するのは4月に創設された大学院人間文化創成科学研究科研究院先端融合部門。「21世紀型お茶の水女子大学」による新たな知の創成を担うべく、活躍が期待されています。

Q 民間の研究所からおいでになられたわけですが、産学連携についてどのように思われますか？

A 製品開発競争が激しい状況下では企業が基礎研究に投資できるリソースは限られているので大学との共同研究は重要です。大学も企業の研究所の最先端の研究設備を利用できるのはメリットでしょう。両者のベクトルが一致していれば協働の効果が期待できると思います。



Q ご指導されるなかで、学生に言いたいこと、伝えたいことはなんでしょう？

A 4月からスタートしたばかりですが、他の大学で非常勤をしていた経験と併せて考えてみると、自分で考えて問題を解決しようという意欲を持った学生が少ないのは残念ですね。是非、自分自身で考える力を身につけて欲しいと思います。その為に、もっと教員を利用してほしいですね。

Q それは、今まで学生を受け入れる側にいらした立場の実感ともかわりがありますか？

A 企業の側の実感では、やはり配属されて来た新人を見ていると大学で何をしてきたんだと言いたくなる人も結構居ます。また、言われたことはやるが、自分で考えて行動しないとか。言い方が良くないかも知れませんが、本来、大学が卒業を認めることは、その学生の学力（能力？）に対する品質保証のはずです。企業が不良品を世に出したら社会問題になりますよね。政府の会議で産業界の代表から大学への予算配分に関して厳しい意見が出されているようですが、原因の一端はこのあたりにあるのかも知れませんね。

どうもありがとうございました。

インタビューを終えて

まるで門外漢の聞き手の質問に、物静かかつ理路整然と答えて下さいました。その中で、「ご研究分野が将来の我々の生活にどんなふうに関わってくるのでしょうか」という質問に対し「どんなウレシイことがあるかといいますと」と言い直された時の目の輝きがとても印象的でした。御多忙の中、お時間を割いて下さった事に重ねて謝意を表したいと思います。

小坂圭太（人間文化創成科学研究科 基幹部門文化科学系 准教授）



Masashi Ban
番 雅 司

番先生からお茶大生へのメッセージ

学生の皆さんは、各自の専門分野での基礎知識をしっかりと身につけて、自分の頭で考え、判断し、行動する人間になって欲しいと思います。その為に、大学というところを大いに活用してください。

更に詳しく先生のご研究や講義内容等について知りたい方は、先生のホームページ <http://sofia.phys.ocha.ac.jp/qinfo/>へ。

教員紹介
先端的研究の推進

大学改革としての事務改革

事務局の廃止と業務の改善

本学は、中期目標・中期計画の達成に向け、効率的かつ適確に業務を推進する仕組みとして、以下の観点から事務組織を抜本的に見直し、法人化以後の多様な変化に対応可能な体制を整備いたしました。

業務改善コンテスト

平成19年5月を業務改善月間として実施された「業務改善アイデアコンテスト」にて、総応募42 件のなかから、学長表彰として下記の3件が選ばれ、6月25日に表彰式がおこなわれました。

なお、提案されたすべての内容について、今後、担当チームによる費用対効果などを精査して、実現に向けた検討を重ねることになりました

事務組織再編の観点

意志決定ラインの一元化

学長・役員会と一体になって業務を遂行する観点から、事務組織を総務、教育、国際・研究及び学術・情報の4機構長の直轄とし、指揮命令系統を一元化する。

戦略体制の整備

学長のスタッフラインを充実強化し学長室を整備する。

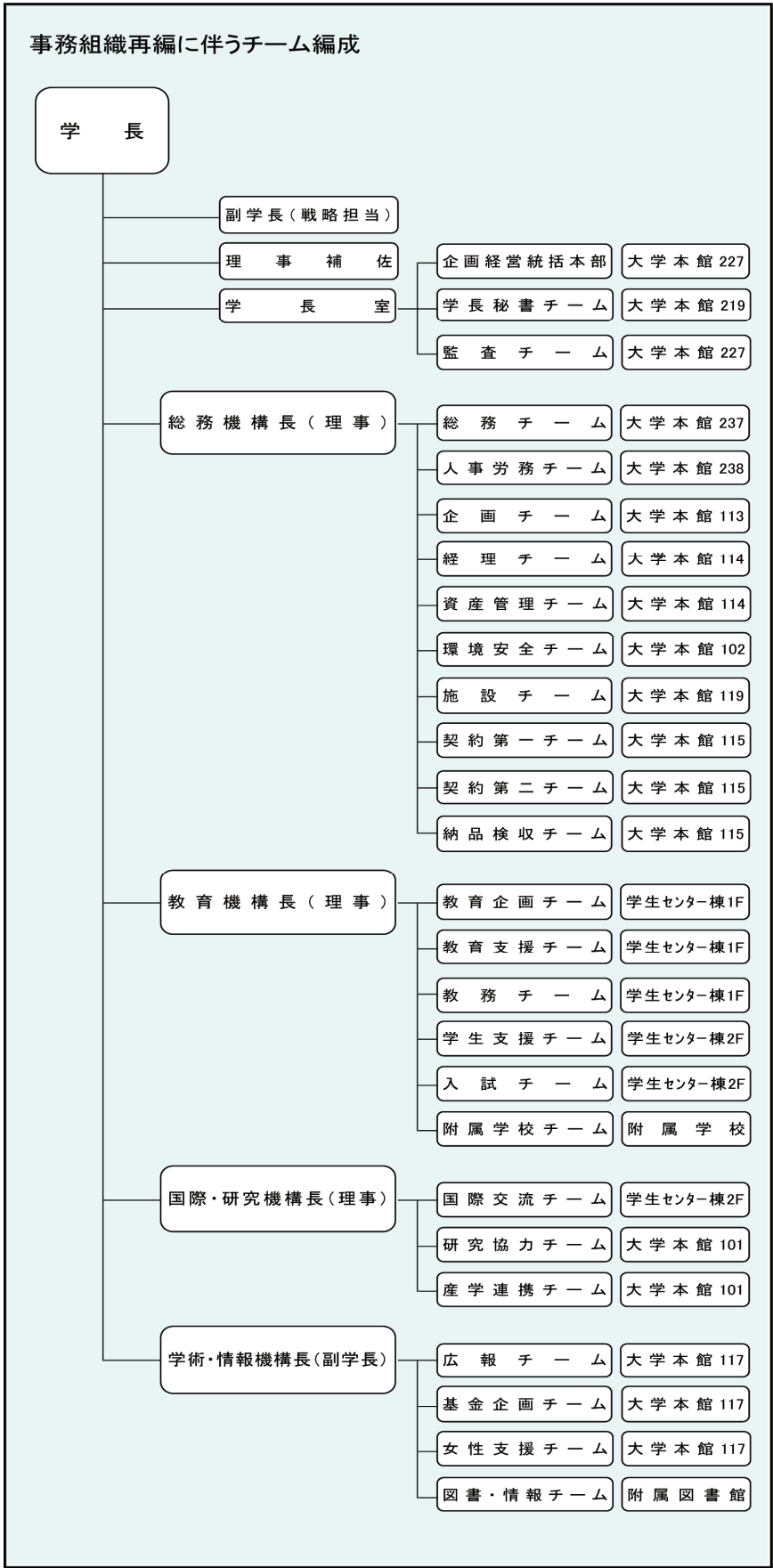
柔軟な組織構造と優れた人材の登用

業務の繁閑に応じて、より柔軟かつ機動的な対応が可能となるチーム制を導入する。

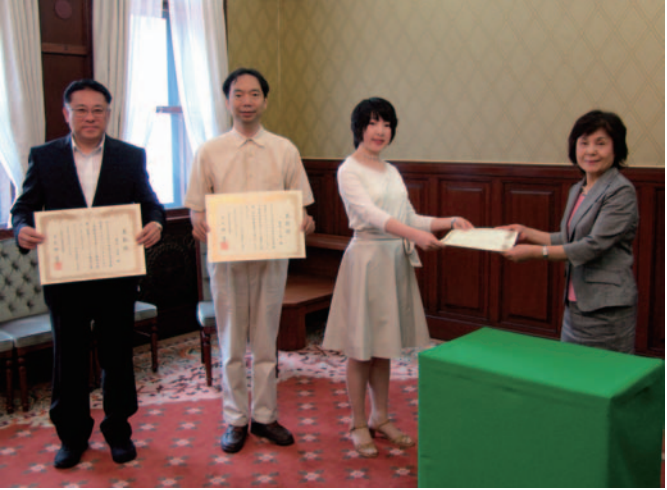
また、優れた人材をチームリーダーに登用する。

組織ミッションの明確化

共通業務の集約化し、職務権限を明確化して組織目標を共有化する。



提案事項	アイデアの内容	応募者氏名・所属	
学内郵便番号の導入	学外からの郵便物の配布作業の軽減として、『学内郵便番号（建物・部局・部屋まで細分類し付す番号。例：理学部3号館408号室の場合、【S3-408】と表示）の導入』を提案する。	椎尾 一郎	大学院 人間文化 創成科学 研究科教授
掲示方法の改善	掲示板の掲示方法として、『期限の早い順に、上下、左右等、一定の方向に並べる法則』を提案する。このことにより、掲示物の取外しが容易となり、無駄な掲示物が減少することや、学生が見易くなり、掲示物を見落とさなくなる等利点は大きい。	栗原 瑶実	理学部 数学科3年
有償ボランティア制度の導入	通常業務では目が届きにくい建物等の周辺を、定期的に（週1回程度）巡回して、危険性の有無等を調査、報告し、可能な範囲で小修繕等を自ら行う『有償のボランティア制度の導入』を提案する。	通山 正年	副学長 （戦略担当）



大学改革としての事務改革

事務局の廃止と業務の改善

平成19年度入学式 学長告辞

お茶の水女子大学、学部入学生のみなさん、ご入学おめでとうございます。みなさんをお茶の水女子大学の新しいメンバーとしてキャンパスにお迎えできることを、たいへん嬉しく思います。

みなさんは念願叶って入学の日を迎えられて、その感激で胸がいっぱいでしょう。この日までの長い年月の間、教育に心を砕かれ、お嬢様方のご成長を見守ってこられたご家族のお喜びもひとしとお祝い申し上げます。

本学は女子師範学校として1875（明治8）年9月に開学いたしました。今から132年前のことです。後に、東京女子高等師範学校、通称は女高師と呼ばれておりました。開学当時の設立場所は文京区大塚ではなく湯島、現在の東京医科歯科大学のあるJR御茶ノ水駅の近くでございました。その後、関東大震災による大きな被害を受けまして、現在のこの大塚の土地に新たに校舎を建て、75年が経ちます。震災の教訓を活かしまして頑丈につくられましたこの講堂は微音堂と呼ばれ、4年に渡る改修が終わり、昨年、新たに甦りました。この新しい微音堂で入学生としてのみなさまを今日初めてお迎えすることも嬉しく思います。

お茶の水女子大学の前身である女子師範学校は、日本で最初に設立されました女子に高等教育を行うための機関でした。現在の文部科学大臣に相当する当時の文部卿、木戸孝允によって設立の布達が出されたのが明治7年3月のことです。本学の学外理事である和田昭允先生は木戸孝允卿の曾孫にあたる方でございます。

この講堂がつくられてから5年ぐらい、つまり70年前にちょっとタイムスリップをしてみたいと思います。ヘレン・ケラーは皆さんご存知かと思います。1880年にアメリカで生まれ、視覚、聴覚、言語障害の3重苦を背負いながらも、いろいろな知識を身につけて、著述者や社会福祉事業家として活躍されました。世界の各地で講演活動を行って身体障害者の教育や福祉に多くの貢献を残しました。ヘレン・ケラーは昭和12（1937）年、本学の微音堂で講演をしました。講演を聴いた在校生が感激したという話も聞いておりますし、当時の写真なども本学に残されています。それがちょうど今から70年前の4月26日のことです。ヘレン・ケラーは次のような言葉を残しています。「知識は力なり」という。しかし、私は「知識は幸福」だと思う」。アメリカ東部の名門女子大学ラドクリフでヘレン・ケラーはあらゆる本に心を開き、じっくりと味わいながら色々なことを学びました。その経験から深く広く知識を持てば、正しい目的と、誤った目的、高尚なものと低俗なことを識別できるようになるから、「知識は幸福」であると話したのだといわれます。

お茶の水女子大学は、学ぶ意欲のある全ての女性のために、真摯な夢の実現の場として存在することを使命としています。また、あらゆる分野でリーダーを育てることを目標としております。

では、なぜ女子大学なのでしょう。私はちょうど49年前、皆さんと同じようにこの大学に新入生として入学しました。4年間の学部教育を受けた後で、共学の大学で学んだり教えたり研究をした後、2年前に本学に戻ってまいりました。そして、女子だけで、ある時期に教育を受けて切磋琢磨することが、リーダーシップを育てるうえで一番よいことであると確信するようになりました。

女子大学では女性同士がお互いに切磋琢磨して、成長していけることがよいことです。さらに、お茶の水女子大学の場合は、少人数教育で先生方の目が一人ひとりに行き届きます。しかも、徹底的に鍛えられます。基礎教育を重視していますから、違う専門分野に移ったとしても、応用が利くなどの実力が身についています。女性だけで、少人数で、しかも、基礎教育を重視するという3つの点がお茶の水女子大学の存在をアピールできるポイントです。

世の中の色々な分野で、活躍できる女性リーダーを育てるための最適な環境条件が整っていると思います。本学の卒業生は社会の色々な場で指導的な立場で活躍しています。特に研究職、教育職について活躍された方々は全国の隅々まで行き渡っています。優れた女性リーダーを育む校訓と伝統は現在まで絶えることなく続いております。



現在、87の国立大学法人のなかで本学と奈良女子大学の2つが女子大学として存在しております。私学にも多くの女子大学が存在しています。一方、アメリカの東部には名門の女子大学があります。かつてはセブン・シスターズと呼ばれた7つの名門女子大学がありました。しかし、ヴァッサー・カレッジが共学になり、ラドクリフ・カレッジも学生がハーバードの学生を兼ねるようになって、事実上共学になり、現在はファイブ・シスターズとなった女子大学が、全寮制の少人数教育を守りながら、今も、入学時の高い競争率のもと、優れた女性を世に送り出しています。

アメリカで、初の女性大統領候補となる可能性がささやかれているヒラリー・ロダム・クリントン上院議員は知事夫人でありながら「全米100人の弁護士」に選ばれております。傑出した秀才であることは間違いありません。

ヒラリーはファイブ・シスターズのひとつであるウェルズリーカレッジの出身であり、女性の仲間といることが多かったのです。ウェルズリーでは寄宿舎生活を通して、一生続く友人を得ました。女子大学はリーダーシップを発揮するには最高の環境でした。共学であれば男子生徒に譲ったかもしれない様々な役割を、自分たちで独占できたのです。ヒラリーがウェルズリーで過ごした1960年代、特に、この後半はベトナム反戦運動が高まりを見せていました。卒業式にはウェルズリー初の卒業スピーチをヒラリーがすることになります。ヒラリーはアメリカの古き良き価値観が崩れていく不安、ベトナム戦争への不安、自分たちの将来への不安を感じながらも情熱的な生き方を望んでいく気持ちを率直に卒業スピーチに込めました。スピーチは熱狂的な拍手をもって聴衆に称えられました。ヒラリーのもとには取材が殺到しました。総代として、全米に知れ渡る卒業スピーチになりました。

これらは、岸本裕紀子さんが書かれた新書『ヒラリーとライス アメリカを動かす女たちの素顔』に詳しく描かれています。

（次ページへ）

平成19年度入学式 学長告辞

平成19年度入学式 学長告辞

(前ページより)

お茶の水女子大学は国立大学として法人化後3年を経て、今、大きく変わろうとしています。教育、研究、そして社会への貢献に改革を進めております。文字どおり日々躍進しております。今年度は特に学生のみなさんのために学内の設備など改善していく、そのための予算をつけておりますので、みなさまが入学されてから色々なところが良くなっていくと思います。食堂なども拡張してまいります。また、皆さんへの一番大事な教育について申し上げますと、文系・理系ともに新しい融合領域への展開、研究者養成とともに社会のさまざまな分野におよぶキャリア教育を一層充実させております。この4月から始まる科目「お茶の水女子大学論」は、今年から新たに設けた科目です。学部を超えて、大学全体で協力して運営いたします。お茶の水女子大学はどういう大学なのか、大学生活を有意義に過ごすためには何をすべきか、先生方、本学の卒業生、先輩と一緒にこの微音堂で考えていきましょう。

来年、2008年度から新たに21世紀型リベラルアーツ教育を学部段階で開始いたします。今年は、その序章として新たな科目など文系や理系といった枠を超えて広く人間性を養い、社会の変化、21世紀のグローバル時代を生きるための「知」を身につけるための講義がスタートします。少子高齢化の時代に子育て、家族との生活を充実させながら大学で学び、英知を磨いた女性が生涯を通して個としての自己を確立し、また、社会への参加を貫いていくことの大切さを身につけていただきたいと思います。

4年後に卒業生としてこの微音堂から巣立っていくみなさん、4年間に何を学ぶことができ、そして人間としてどのように成長したのか、ヒラリーがウェルズリーの卒業式でおこなったスピーチのように、自分の内面と社会に開かれた眼差しを、情熱を持ってどのように表現していけるか今から考えておいてください。

ご入学おめでとうございます。



平成19年度大学院入学式 学長告辞

お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科博士前期課程と後期課程の入学生のみなさん、ご入学おめでとうございます。みなさんをお茶の水女子大学の新しいメンバーとして、このキャンパスにお迎えできることをたいへん嬉しく思っております。国旗が並んでおりますが、世界9カ国から41名の留学生のみなさん、お茶の水女子大学はみなさんの大学院入学を心から歓迎いたします。みなさんは今日から大学院生として専門分野の探求に日夜励まれることになります。

本学はこの4月、大きな変化を迎えました。大学院の名称が変わりまして、人間文化研究科から「創成科学」が加わりまして、「人間文化創成科学研究科」となりました。専攻も新たに編成されまして、本学の教員のほとんど全てが大学院に所属する、そういった大きな改組をいたしました。この大きな変革の最初の年に、みなさんは本学大学院生として入学されたわけでございます。

21世紀は男女共同参画の時代でございます。我が国は約40年余り経済において飛躍的な発展を遂げました。そして、世界のトップグループの仲間に入りました。しかし、残念なことに先進国のなかでは女性研究者の占める割合は非常に低い値となっています。2006年度の日本では11.9%です。アメリカでは32.5%、フランスでは27.5%でございますから、日本の11.9%というのは、この4年間で4%増えておりますが、先進国のなかでは低い値でございます。昨年度から第3期科学技術基本計画が開始されました。そのなかには、5年間で自然科学分野の女性研究者の割合を25%に増やすといったことが書かれております。本学の女性教員の割合は40%で、国立大学のなかでは最大の比率です。しかし、これを50%にするため、努力を続けている次第です。

一方、国立大学協会では2001年から2010年までの間に、国立大学の女性教員の割合を20%とする数値目標を掲げました。本学は40%ですので、その目標に十分に達しているのですけれども、いまの女性教員の割合は、87の大学と2つの短期大学でアンケートをおこなった2005年の調査の結果なのですが、9.3%というかなり低い値です。いま申し上げた話題は助教と非常勤講師は抜いた数値でございます。その5年前は6.6%ですから、5年間で2.7%増えたわけですが、2010年までに目標値の20%に到達することは困難であるといわざるを得ない状況でございます。多くの国立大学で飛躍的な改善が図られることが必要です。私が申し上げているのは皆さんをエンカレッジするためでございます。このように低い値があるから女性の優秀な教員の方達が存在すれば、どの国立大学も採用したいと思い、これはみなさんにとって大きなチャンスです。

大学院に在籍される間、大切なことは指導教員、師との出会いです。人生において師との出会いが人生の指針となることはよく言われることですが、特に研究者として研鑽の道を歩む者には身近な指導者を見習うことが多いと思います。本学は教員の40%が女性ですので、子育てをしながら、あるいは両親を介護しながら大学で教え、研究している女性の教員もたくさんおります。そういう先生方がおられるところですから、みなさんにとってはこんなにいい研鑽の場所はございません。お手本がたくさんあるというということは、他の国立大学ではほとんどみられない本学の大きな特徴でございます。

本学は21世紀の社会で活躍する女性リーダーを養成することを目標としております。新しい科学技術分野や環境問題など、狭い学問分野に閉じこもっては解決できない多くの問題が、地球上に住む人類の共通の課題となっています。女性が学問分野を横断する新しい分野、あるいは社会にまだ確立していない領域に進出し、能力を発揮していくことが必要であり、大切なことと考えております。本学は文部科学省のご支援によりまして、「女性研究者に適合した雇用環境モデルの構築」というお茶の水女子大学独自のワークライフバランスを推進するプログラムを実施中です。ワークライフバランスとは仕事も家庭も調和の取れた生活を送る、そういったプログラムを推進するということでございます。子育て中の女性研究者にどのような雇用環境を整えれば仕事の能率を上げて充実した勤務を終え、一人ひとりのプライベートな生活の充実を実現させることができるか、これを5人の子育て中の女性研究者を対象に、実験的な試みを行っております。通称「9時～5時」プログラムとありますが、本学全体として実施できる体制を整えつつあります。このプログラムはいろいろなマスコミからも取材・報道されておりますので、すでにお気づきかもしれません。みなさまにもこのようなプログラムを身近なところでぜひ注目していただき、将来の参考にさせていただきたいと思います。

女性の研究者が持てる力を発揮するためのプログラムは、大学院生として研究生活を開始するみなさんにとっても、将来のキャリア設計にとって大変に重要な事業と思っております。

本学の恵まれた研究環境のなかで日本の女性研究者の道を切り開くその代表としての活躍を願っております。本学の教員や事務の職員も温かく皆さんを応援しております。

(抜粋)

奨学金受賞者決定

入学時成績優秀者奨学金・研究奨励賞・桜蔭会研究奨励賞授与式

4月25日、本学独自の奨学金のうち「入学時成績優秀者奨学金」「お茶の水女子大学桜蔭会研究奨励賞」「お茶の水女子大学研究奨励賞」の授与式が行なわれました。

桜蔭会研究奨励賞及び研究奨励賞は、本学の学部から大学院人間文化創成科学研究科博士前期課程に進学した学生の中から特に優秀でかつ将来が嘱望されると認められる学生に贈られるもので、今年度から新たに卒業生組織である社団法人桜蔭会の助成により発足した制度です。今年度は桜蔭会研究奨励賞5名、研究奨励賞3名が受賞しました。

本学理事、斎藤桜蔭会会長及び学部長、研究科長等関係の教員臨席のもと、受賞者に郷学長から一人ひとりに賞状と奨励賞が手渡され、お祝いと励ましの言葉が述べられました。



お茶の水女子大学研究奨励賞 受賞者3名

大学院人間文化創成科学研究科 ライフサイエンス専攻1年 宮倉 玲子

まず始めに、研究奨励賞という素晴らしい賞を頂きましたことを大変嬉しく誇りに感じると共に、この場を借りて関係者の方々に深く感謝申し上げます。受賞に際し、食物や栄養の研究を通じて少しでも大学に貢献したいという思いが強くなりました。今後、本制度が学生の勉学に対する励みとなることを期待しています。

大学院人間文化創成科学研究科 比較社会文化学専攻1年 米田 友里子

専攻は日本古典文学だと言うと、何の役に立つのかと否定的な意味で聞かれることがあります。実用的ではない、その上自分で創作するわけでもない、云々。しかし細かい反論はさておき、この度の受賞は、文学も無駄な学問ではないと認められているからこそだと、心強く思います。

知的好奇心は時に人間を滅ぼします。人生で得られる知識は、死がある以上確実に限られているからです。絶望の予感、しかし勉強は楽しいのです。研究し続けても、真理を手中にすることはないかも知れません。それでも束の間の一生を、できれば他人の人生、世界をも豊かにしたいと希って私は勉強するのです。

大学院人間文化創成科学研究科 理学専攻1年 松嶋 美佳

今回このような素晴らしい賞をいただくことができ、大変嬉しく思っています。私がこの賞を受賞できたのは、こつこつと努力してきた結果だと思っています。大学では時間があるので、何でも出来ると思います。後輩の皆さんは、その中で何か継続して頑張れるものを見つけてください。続けることは、後に必ず自分の自信になると思います。

お茶の水女子大学桜蔭会研究奨励賞 受賞者5名

大学院人間文化創成科学研究科 人間発達科学専攻1年 石田 素子

“Ask, and it will be given to you; seek, and you will find; knock, and it will be opened to you.” (Mat 7:7)

自ら目標を定め、それに向かって一生懸命挑戦してください。その結果は自分が望むとおりのものかもしれませんが、想定外のものかもしれません。いずれにしても、その結果に納得できるぐらいに最大限の力を尽くすことが大切なことだと思います。

大学院人間文化創成科学研究科 人間発達科学専攻1年 小林 肖

このたびは荣誉ある桜蔭会研究奨励賞を受賞できましたことを大変光栄に思います。

いまだ自らの未熟さを痛感するばかりですが、私が学部時代に心掛けていたことをひとつ挙げさせていただきますと、授業を大切にすることです。他学部の授業であっても興味のある授業には積極的に参加し、毎回の授業、先生方のひとつひとつのことを懸命に理解し、自分の中で消化しようとしていた気がします。大学では、高校までの受け身的な学びではなく、自ら積極的に考えるということが求められます。私は批判的に考えるということを非常に苦手としていますが、批判的、積極的に考えるということを学び、習得していくためにも、学びの偉大な先人でいらっしゃる先生方の授業は非常に重要です。といいますのも、授業では先生方がどのように物事を捉え、どのように考えようとしているのかということを感じることができるだけでなく、物事を批判的に捉え、独創的に考えるためのヒントや手がかりが多く隠されているからです。まずは授業に積極的に取り組むことから始めて、疑問を持ち、自分の頭を通してよく考え、探求するという実践していくことが重要であると思います。

今回の受賞は、研究の世界へと一歩踏み出す大きな励みと勇気になりました。今後質の高い研究を目指し、ますます意欲的に学業に取り組んでまいりたいと思います。

大学院人間文化創成科学研究科 ライフサイエンス専攻1年 葛西 路子

この度は桜蔭会研究奨励賞を受賞できましたことを大変光栄に思っております。

大学4年時に研究室に配属され、自ら考えるということがとても重要で、しかも難しいことであると改めて感じました。授業に対する理解はもちろん、自由な発想力も必要です。投げ出したくなることもあります。この賞を励みにこれからも研究に勤しみたいと思います。

大学院人間文化創成科学研究科 理学専攻1年 斎藤 真莉子

この春に桜蔭会研究奨励賞を頂くことができました。

私は現在福田研究室(化学)に所属しており、錯体化学の研究を行っています。研究を進めていく上で重要なのは、最後までやりとげる忍耐力、また新しいものに触れることで得られる自由な発想、創造力です。この度頂いた奨学金は、様々な学会や勉強会に参加したり、より良い環境で研究を進める上で役立てたいと考えています。

大学院人間文化創成科学研究科 比較社会文化学専攻1年 上杉 奈央子

この度は名誉ある賞をいただき、大変光栄に思っております。私が学部で在籍していた音楽表現コースは、音楽の理論と実践の両方を学べるという特色があります。演奏専攻でも音楽学の充実した講義や徹底した論文指導を受けることができ、音楽に対する広い視野を養うことが可能です。私はピアノ専攻ですが、音楽美学の分野にも関心があり、修論に向けて勉強中です。後輩の皆さんにはこういった利点を存分に享受して、深い洞察をもった音楽家を目指していただきたいです。

奨学金受賞者決定

入学時成績優秀者奨学金・研究奨励賞・桜蔭会研究奨励賞授与式

Welcome back to OCHADAI !

ホームカミングデイグラフィレポート



新制お茶の水女子大学の開学記念日に当たる5月31日、全学体制での第一回ホームカミングデイが開催され、平日にもかかわらず500名以上の卒業生の方々が参集されました。天候に恵まれたなかで、現役学生が案内役を務めてのキャンパス・ツアーが、6回にわたり実施されました。

微音堂では、藤原正彦教授の特別講演「祖国とは国語」、名誉学友記贈呈式、微音堂改修募金の中から郷学長の懇意により今春購入されたドイツ・スタインウェイ社ピアノのお披露目も兼ねた、音楽表現学コース学生による演奏会がおこなわれました。また歴史資料館と図書館も公開され、とくに歴史資料館では、昨年度開始された「歴史資料館施設整備募金」によって整備された貴重な資料が、多数公開されました。

こうした全学の企画のほか、卒業生と教員の合同懇親会や、お茶の水女子大学後援会総会、そして学部ごとの企画としての名誉教授による講演会や特別講義が、多彩に開かれました。各サークルを中心に学生企画も多数登場し、卒業生との世代を超えた交歓の様相が終日繰り広げられました。

Welcome back to OCHADAI !

ホームカミングデイグラフィレポート



キャンパス点描

歴史資料館企画展

特別企画展「女高師と皇室展」



平成19年3月23日～4月11日、大学本館歴史資料館において、「女高師と皇室展」が開催されました。

本学は明治8年の開学以来、皇室と深いかわりがあり、東京女子高等師範学校時代を通じて、さまざまな貴重な資料が保管されています。

今回の展示では、下賜品や令旨、当時の書類、アルバム、絵画、書、写真、音声テープなど、皇室関係の資料を一堂に会し、あわせて女高師の歴史をふりかえりました。春休み中にもかかわらず、学内外の教職員、卒業生、学生、受験生、御父母、そして宮内庁書陵部や大学関係者など、期間中の来館者は約300名にのぼりました。

歴史資料館は、徽音堂を含む大学本館の改修工事に併せ、平成18年3月に大学本館1階に設置されました。今回の企画展示で使用した展示ケースは、「歴史資料館施設整備募金」のご寄付により購入したものです。



大学院オープンキャンパス

平成19年4月より、お茶の水女子大学大学院が組織を改め、文理融合型の大学院「人間文化創成科学研究科」として再出発することに伴い、4月21日（土）に徽音堂にて、大学院オープンキャンパス（受験生説明会）を開催いたしました。300名近くの方にご来場いただき、名称を変えて新たに出発する人間文化創成科学研究科について、学長および研究科長からご説明をさせていただきました。（当日の学長からの説明は、大学HPの「学長室のページ」に掲載しています。）

その後、博士後期課程では専門研究指導の紹介を、博士前期課程では各専攻コース別説明会を実施するとともに、博士後期課程の受験希望者に対しては、それぞれの専門分野の指導教員から直接説明を聞く機会を設け、本学大学院の教育・研究環境における魅力を十分に感じていただきました。

また、受験、履修・カリキュラム、奨学金、学生宿舍、就職、留学などの各種学生生活に関する相談室も開設し、数多くの方が相談に訪れていました。



イベントインフォメーション

五女子大学共催イベント

ー女子中高生のためのサイエンス・フェスティバルー

しなやか

「未来が求める、科学的感性」 (仮)

日時：2007年10月27日（土）13：30-17：00

場所：お茶の水女子大学

詳しいお知らせは本学ホームページをチェックしてください。

<http://www.ocha.ac.jp/>

共催：お茶の水女子大学

津田塾大学

東京女子大学

奈良女子大学

日本女子大学

キャンパス点描

お茶の水女子大学学報 第214号

▽発行日： 2007年7月15日

▽発行： 国立大学法人お茶の水女子大学
東京都文京区大塚2-1-1 (〒112-8610)

ご意見・ご感想はこちらまで

学術・情報機構広報チーム

電話 03-5978-5105

FAX 03-5978-5545

E-mail: info@cc.ocha.ac.jp

URL: <http://www.ocha.ac.jp/>